(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2023-135513
(P2023-135513A)
(43)公開日　令和5年9月28日(2023.9.28)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
Ｅ０４Ｂ	*1/348(2006.01)*	Ｅ０４Ｂ	1/348	Ｖ	２Ｅ０２５
Ｅ０４Ｈ	*1/02 (2006.01)*	Ｅ０４Ｂ	1/348	Ｄ	
		Ｅ０４Ｈ	1/02		

審査請求　未請求　請求項の数　6　ＯＬ　（全12頁）

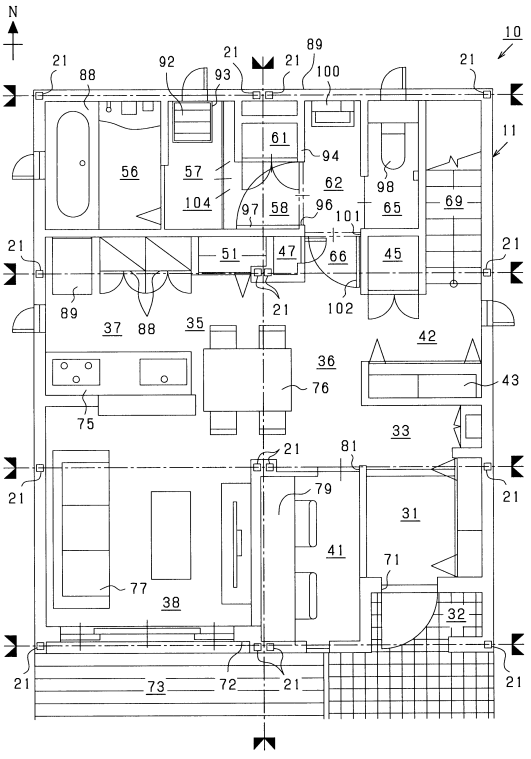
(21)出願番号　特願2022-40761(P2022-40761)
(22)出願日　令和4年3月15日(2022.3.15)

(71)出願人　504093467
トヨタホーム株式会社
愛知県名古屋市東区泉一丁目２３番２２号
(74)代理人　100121821
弁理士　山田 強
(74)代理人　100161230
弁理士　加藤 雅博
(72)発明者　梶原 崇
愛知県名古屋市東区泉１丁目２３番２２号 トヨタホーム株式会社内
(72)発明者　中村 聡
愛知県名古屋市東区泉１丁目２３番２２号 トヨタホーム株式会社内

Ｆターム（参考）　2E025　AA02 AA12 AA25

(54)【発明の名称】　住宅

(57)【要約】
【課題】水回り設備を建物ユニットに設置するにあたり、施工工数の低減を図ることができるユニット式住宅を提供する。
【解決手段】住宅１０は、複数の建物ユニット２０が互いに組み合わされて構成されている。住宅１０には、洗濯機９２及び洗濯パン９３が設けられた建物ユニット２０Ｄと、洗面台１００が設けられた建物ユニット２０Ｃとが横並びに隣接して設けられている。建物ユニット２０Ｄには、浴室５６と脱衣室５７とが設けられている。浴室５６と脱衣室５７とは、各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄが並ぶ並び方向に隣接して設けられており、脱衣室５７は、浴室５６よりも各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄの境界部であるユニット境界部１０７寄りに配置されている。洗濯パン９３は、脱衣室５７に設置されている。洗面台１００は、通路スペース６２に設置されている。洗濯パン９３と洗面台１００とは、ユニット境界部１０７を挟んで互いに離間して配置されている。
【選択図】　図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の建物ユニットが互いに組み合わされることにより構成されたユニット式住宅であって、
前記建物ユニットとして、水回り設備が設けられた水回り空間を形成するとともに横並びに隣接して設けられた複数の水回りユニットを備え、
前記水回り空間として、前記各水回りユニットの並ぶ並び方向に隣接して設けられた浴室及び脱衣室を備え、
前記脱衣室は、前記浴室よりも、前記各水回りユニットの境界部であるユニット境界部寄りに配置され、
前記水回り設備として、洗面台と、洗濯機が設置される洗濯機設置部とが設けられ、
前記洗濯機設置部は、前記脱衣室に設置され、
前記洗面台は、前記脱衣室とは別の前記水回り空間又は前記脱衣室に設置され、
前記洗濯機設置部と前記洗面台とは、前記ユニット境界部を挟んで互いに離間して配置されていることを特徴とする、住宅。
【請求項２】
前記洗面台は、前記別の水回り空間としての洗面スペースに設置され、
前記洗面スペースには、リビングから前記脱衣室を経由せずに行き来可能となっていることを特徴とする、請求項１に記載の住宅。
【請求項３】
キッチンから前記脱衣室には、通路スペースを通じて行き来可能となっており、
前記通路スペースが前記洗面スペースとなっていることを特徴とする、請求項２に記載の住宅。
【請求項４】
前記通路スペースから前記脱衣室側へ出入りするための出入部には、前記出入部を開閉する開閉体が設けられていることを特徴とする、請求項３に記載の住宅。
【請求項５】
前記洗濯機設置部と前記洗面台との間には、物を収納可能な収納部が前記ユニット境界部を跨いで設置されていることを特徴とする、請求項１乃至４のいずれか一項に記載の住宅。
【請求項６】
前記浴室及び前記脱衣室が並ぶ方向と直交する方向に前記脱衣室と隣接して設けられた小スペースを備え、
前記小スペースは、その全体が、前記浴室及び前記脱衣室が設けられた前記水回りユニットの内部に配置されていることを特徴とする、請求項１乃至５のいずれか一項に記載の住宅。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、複数の建物ユニットが組み合わされることにより構成されるユニット式住宅に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
ユニット式住宅の間取りをプランニングする際、住宅の南側にダイニングキッチンを配置し、北側に浴室や洗面室等の水回り空間を配置するゾーニングが行われることがある。特許文献１には、こうしたゾーニングが行われたユニット式住宅が開示されている。このユニット式住宅では、水回り空間を形成する複数の建物ユニット（以下、水回りユニットという）が横並びに隣接して設けられている。水回り空間としては、浴室と脱衣室とがユニット並び方向に隣接して設けられている。浴室は一方の水回りユニットの内部に配置され、脱衣室は各水回りユニットに跨って配置されている。

【０００３】
脱衣室には、水回り設備として、洗面台と、洗濯機が設置される洗濯パンとが設置されている。洗面台と洗濯パンとは、脱衣室内の通路スペースを挟んで互いに離間して配置されている。また、洗面台と洗濯パンとはいずれも、各水回りユニットの境界部を跨いで配置されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１７－１１０４７０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ここで、洗面台と洗濯パンとが各水回りユニットの境界部を跨いで配置されている上記の構成では、洗面台と洗濯パンとをユニット工場において水回りユニットに組み付けることは困難である。そのため、洗面台と洗濯パンとに接続される給排水設備についても、ユニット工場にて水回りユニットに組み付けることは困難である。したがって、この場合、これらの組み付け作業をすべて、施工現場において各水回りユニットを設置した後に行う必要があり、施工工数の増大を招くおそれがある。
【０００６】
本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、水回り設備を建物ユニットに設置するにあたり、施工工数の低減を図ることができるユニット式住宅を提供することを主たる目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
第１の発明の住宅は、複数の建物ユニットが互いに組み合わされることにより構成されたユニット式住宅であって、前記建物ユニットとして、水回り設備が設けられた水回り空間を形成するとともに横並びに隣接して設けられた複数の水回りユニットを備え、前記水回り空間として、前記各水回りユニットの並ぶ並び方向に隣接して設けられた浴室及び脱衣室を備え、前記脱衣室は、前記浴室よりも、前記各水回りユニットの境界部であるユニット境界部寄りに配置され、前記水回り設備として、洗面台と、洗濯機が設置される洗濯機設置部とが設けられ、前記洗濯機設置部は、前記脱衣室に設置され、前記洗面台は、前記脱衣室とは別の前記水回り空間又は前記脱衣室に設置され、前記洗濯機設置部と前記洗面台とは、前記ユニット境界部を挟んで互いに離間して配置されていることを特徴とする。
【０００８】
第１の発明によれば、洗濯機設置部と洗面台とが、各水回りユニットの境界部（ユニット境界部）を挟んで互いに離間して配置されている。この場合、洗濯機設置部と洗面台とはいずれもユニット境界部を跨ぐことなく配置されているため、これらの水回り設備をユニット工場において水回りユニットに組み付けることができる。これにより、水回り設備を建物ユニットに設置するにあたり、施工工数の低減を図ることができる。
【０００９】
第２の発明の住宅は、第１の発明において、前記洗面台は、前記別の水回り空間としての洗面スペースに設置され、前記洗面スペースには、リビングから前記脱衣室を経由せずに行き来可能となっていることを特徴とする。
【００１０】
近年、コロナウイルス等の流行もあり、住宅に訪れた訪問客が手洗い等のために洗面台を利用することがある。ここで、洗面台が脱衣室に設置されている場合、脱衣室は洗濯機が設置された洗濯用スペースとなっていることから、洗濯を行う居住者（例えば、主婦）のプライバシが損なわれるおそれがある。そこで、第２の発明では、こうした点に鑑み、洗面スペースには、リビングから脱衣室を経由しないで行き来可能となっている。このた

め、洗面台を利用する訪問客から脱衣室を見られてしまうことを抑制できるため、洗濯を行う居住者のプライバシを確保することができる。

【００１１】

第３の発明の住宅は、第２の発明において、キッチンから前記脱衣室には、通路スペースを通じて行き来可能となっており、前記通路スペースが前記洗面スペースとなっていることを特徴とする。

【００１２】

第３の発明によれば、居住者が家事を行う際には、キッチンと、洗濯用スペースとされている脱衣室との間を、通路スペースを通じて行き来することができる。また、通路スペースには洗面台が設けられているため、家事の際の移動途中で手洗いをすることができ、家事を行う上で好都合な構成となっている。

【００１３】

第４の発明の住宅は、第３の発明において、前記通路スペースから前記脱衣室側へ出入りするための出入部には、前記出入部を開閉する開閉体が設けられていることを特徴とする。

【００１４】

第４の発明によれば、通路スペース（洗面スペース）において訪問客等が手洗いをする際に、開閉体を閉めておくことで、脱衣室の内部を見られてしまうことを抑制できる。これにより、洗面スペースを通じてキッチンから脱衣室への行き来を可能とした構成にあって、脱衣室における居住者のプライバシを好適に確保することができる。

【００１５】

第５の発明の住宅は、第１乃至第４のいずれかの発明において、前記洗濯機設置部と前記洗面台との間には、物を収納可能な収納部が前記ユニット境界部を跨いで設置されていることを特徴とする。

【００１６】

第５の発明によれば、収納部は、水回り設備のような給排水設備の設置を必要としないため、施工現場において比較的容易にユニット境界部を跨いで設置することができる。これにより、施工工数の大幅な増大を招くことなく、洗濯機設置部と洗面台との間のスペースを有効活用することができる。

【００１７】

第６の発明によれば、第１乃至第５のいずれかの発明において、前記浴室及び前記脱衣室が並ぶ方向と直交する方向に前記脱衣室と隣接して設けられた小スペースを備え、前記小スペースは、その全体が、前記浴室及び前記脱衣室が設けられた前記水回りユニットの内部に配置されていることを特徴とする。

【００１８】

第６の発明によれば、小スペースは、その全体が、浴室及び脱衣室が設けられた水回りユニット内に配置されているため、小スペースをユニット工場において水回りユニットに組み付けることができる。これにより、小スペースを建物ユニットに設置するにあたり、施工工数の低減を図ることができる。

【００１９】

また、小スペースの全体を、浴室及び脱衣室が設けられた水回りユニットの内部に配置した場合、脱衣室のスペースが圧迫されることが懸念される。しかしながら、洗面台が、浴室及び脱衣室が設けられた水回りユニットとは別の水回りユニットに配置されているため、脱衣室のスペースを十分に確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】ユニット式住宅の一階部分における建物ユニットの配置構成を示す平面図。

【図２】ユニット式住宅の一階部分の間取りを示す平面図。

【図３】一階部分の北寄り部分を拡大して示す平面図。

【図４】建物ユニットを示す斜視図。

【発明を実施するための形態】
【００２１】
以下に、本発明を具体化した一実施の形態について図面を参照しつつ説明する。まず、ユニット式住宅である住宅１０を構成する建物ユニット２０の構成について図４に基づき説明する。図４は、建物ユニット２０を示す斜視図である。
【００２２】
図４に示すように、建物ユニット２０は、その四隅に配設される４本の柱２１と、各柱２１の上端部及び下端部をそれぞれ連結する各４本の天井大梁２２及び床大梁２３とを備える。そして、それら柱２１、天井大梁２２及び床大梁２３により直方体状の骨格（フレーム）が形成されている。柱２１は四角筒状の角形鋼よりなる。天井大梁２２及び床大梁２３は断面コ字状の溝形鋼よりなり、その開口部が向き合うようにして設置されている。
【００２３】
建物ユニット２０の長辺部の相対する天井大梁２２の間には、所定間隔で複数の天井小梁２５が架け渡されている。同じく建物ユニット２０の長辺部の相対する床大梁２３の間には、所定間隔で複数の床小梁２６が架け渡されている。天井小梁２５と床小梁２６とはそれぞれ同間隔でかつ各々上下に対応する位置に設けられている。天井小梁２５はリップ溝形鋼よりなり、床小梁２６は角形鋼よりなる。
【００２４】
続いて、住宅１０について説明する。住宅１０は、複数の建物ユニット２０が互いに組み合わせられることにより構成されている。各建物ユニット２０は、予めユニット製造工場において製造され、トラックにより施工現場に搬送される。施工現場では、搬送された各建物ユニット２０が所定位置に設置されるとともに互いに連結される。これにより、住宅１０が構築されるようになっている。
【００２５】
住宅１０は、一階部分１１と二階部分（図示略）を有する二階建てとなっている。一階部分１１及び二階部分は、いずれも横並びに設けられた複数の建物ユニット２０を有して構成されている。図１は、一階部分１１における建物ユニット２０の配置構成を示す平面図である。以下、図１に基づいて、一階部分１１における建物ユニット２０の配置構成について説明する。
【００２６】
図１に示すように、一階部分１１は、複数（具体的には２つ）の建物ユニット２０が桁方向（平面視における長手方向）を東西方向に向けた状態で並べて設けられた一対のユニット群１３，１４を備えている。一対のユニット群１３，１４は、南北方向に並んでおり、その南北方向において互いに離間して配置されている。この場合、ユニット群１３が南側、ユニット群１４が北側に位置している。
【００２７】
各ユニット群１３，１４同士の間は、建物ユニット２０が存在しない離し置き領域１５となっている。図示は省略するが、離し置き領域１５には、床部を構成する平板状の床ユニットが設けられている。
【００２８】
上記のように、一階部分１１では、ユニット群１３、離し置き領域１５及びユニット群１４が、南側から北側に向けてこの順に並んでいる。各ユニット群１３，１４と離し置き領域１５とは、いずれも東西方向の長さが同じとされている。これにより、一階部分１１では、南北方向に並ぶ各ユニット群１３，１４及び離し置き領域１５により平面視矩形の住宅部分が形成されている。
【００２９】
続いて、一階部分１１の間取りについて図２に基づき説明する。図２は、一階部分１１の間取りを示す平面図である。なお、図２では便宜上、各建物ユニット２０の４隅に配置される柱２１のみを図示している。
【００３０】

図２に示すように、一階部分１１には、玄関３１と、玄関ポーチ３２と、ホール３３と、ダイニングキッチン３５と、リビング３８と、仕事室４１と、廊下４２と、クローゼット４３と、各収納スペース４５，４７，６１と、パントリー５１と、浴室５６と、脱衣室５７と、各通路スペース５８，６２，６６と、トイレ６５とが設けられている。また、住宅１０には、一階部分１１と二階部分（図示略）とを連絡する階段部６９が設けられている。

【００３１】

玄関３１は、一階部分１１において南東の角部に設けられている。玄関３１には、玄関口７１が設けられており、その玄関口７１を通じて屋外側の玄関ポーチ３２より玄関３１に出入りが可能となっている。

【００３２】

玄関３１の北側にはホール３３が連続して設けられている。ホール３３は西側に延びており、ダイニングキッチン３５に通じている。ダイニングキッチン３５は、ダイニング３６及びキッチン３７が連続する連続空間とされており、平面視にて東西方向に長い長方形状とされている。ダイニング３６及びキッチン３７は東西方向に並んでおり、東側から西側に向けてこの順に配置されている。

【００３３】

キッチン３７の南側には、リビング３８が連続して設けられている。つまり、ダイニングキッチン３５とリビング３８とは、全体として平面視Ｌ字状をなすＬＤＫ空間を形成している。なお、リビング３８の南側には、外壁７２を隔ててテラス７３が設けられている。

【００３４】

キッチン３７には、キッチン設備７５が設けられている。キッチン設備７５は、横長状の作業台（キッチン台）を有しており、作業台の上面部にはコンロ等が設けられている。キッチン設備７５は、その長手方向を東西方向に向けて配置されている。ダイニング３６には、ダイニングテーブルと椅子とを有するダイニングセット７６が設けられている。ダイニングセット７６は、キッチン設備７５の東側に隣接して配置されている。リビング３８には、テーブルと椅子とを有してなるソファセット７７が設けられている。

【００３５】

リビング３８の東側には、仕事室４１が隣接して設けられている。仕事室４１は、居住者が仕事を行うための仕事部屋であり、２人掛けのデスク７９が設けられている。仕事室４１は、リビング３８と玄関３１との間に位置しており、北側にはホール３３が隣接している。仕事室４１は、ホール３３から出入口８１を通じて出入り可能となっている。

【００３６】

ダイニング３６の東側には、廊下４２が連続して設けられている。廊下４２は、東西方向に延びている。

【００３７】

ダイニング３６の東側には、クローゼット４３が隣接して設けられている。クローゼット４３は、平面視にて東西方向に長い長方形状をなしている。クローゼット４３は、ホール３３と廊下４２との間に位置している。クローゼット４３には、廊下４２から衣類等を出し入れするための開口部８２が設けられている（図３参照）。

【００３８】

廊下４２の北側には、収納スペース４５及び階段部６９が隣接して設けられている。収納スペース４５と階段部６９とは、東西方向に並んでおり、階段部６９が収納スペース４５の東側に設けられている。収納スペース４５は、廊下４２から開口部８３を通じて収納物を出し入れ可能となっている（図３参照）。

【００３９】

収納スペース４５の西側には、収納スペース４７が設けられている。各収納スペース４５，４７は、東西方向において互いに離間して配置されている。収納スペース４７は、ダイニング３６の北側に隣接して設けられている。なお、各収納スペース４５，４７同士の

間の空間には、後述する通路スペース６６が設けられている。収納スペース４７は、通路スペース６６から開口部８４を通じて収納物を出し入れ可能となっている（図３参照）。

【００４０】

収納スペース４７の西側には、パントリー５１が隣接して設けられている。パントリー５１は、ダイニング３６の北側に隣接している。パントリー５１は、ダイニング３６から出入口８５を通じて出入り可能となっている（図３参照）。

【００４１】

パントリー５１の西側には、食器等を収納可能な複数（具体的には２つ）の収納棚８６が設けられている。各収納棚８６には、キッチン３７から収納物を出し入れすることが可能となっている。各収納棚８６の西側には、キッチン３７の一部が北方向に延出している。当該キッチン３７の延出部分には、冷蔵庫８７が配置されている。

【００４２】

続いて、一階部分１１の北寄り部分の間取りについて、図３に基づき説明する。図３は、一階部分１１の北寄り部分を拡大して示す平面図である。なお、図３では便宜上、各建物ユニット２０の４隅に配置される柱２１のみを図示している。

【００４３】

キッチン３７の北側には、浴室５６が隣接して設けられている。浴室５６には、浴槽８８が設けられている。なお、浴室５６は水回り空間に相当し、浴槽８８は水回り設備に相当する。

【００４４】

浴室５６の東側には、脱衣室５７が隣接して設けられている。脱衣室５７は、パントリー５１の北側に隣接して設けられている。この場合、脱衣室５７とパントリー５１とは、浴室５６と脱衣室５７とが並ぶ並び方向と直交する方向に隣接して設けられている。浴室５６には、脱衣室５７から出入口９１を通じて出入り可能となっている。

【００４５】

脱衣室５７には、洗濯機９２と、洗濯機９２を設置する洗濯パン９３とが設けられている。洗濯機９２と洗濯パン９３とは、脱衣室５７において北側の外壁８９の壁際に設置されている。脱衣室５７に洗濯機９２が設置されていることで、脱衣室５７は、居住者（例えば、主婦）が洗濯を行う洗濯用スペースとして利用されるようになっている。なお、洗濯パン９３は、水回り設備及び洗濯機設置部に相当する。脱衣室５７は、水回り空間に相当する。また、脱衣室には洗面台が設けられているのが一般的であるところ、本実施形態では、脱衣室５７に洗面台が設けられていない。

【００４６】

脱衣室５７には、洗濯物を干すための物干しスペース１０４が設けられている。物干しスペース１０４には、洗濯物を吊り下げ可能な物干し竿１０５が設けられている。

【００４７】

脱衣室５７の東側には通路スペース５８が連続して設けられている。通路スペース５８の北側には収納部９４が設けられている。収納部９４は、外壁８９の壁際に設置され、物を収納可能な収納スペース６１を有している。収納スペース６１には、開口部９５を通じて通路スペース５８から物を出し入れ可能となっている。

【００４８】

通路スペース５８の東側には、通路スペース６２が隣接して設けられている。通路スペース６２は、南北方向に延びており、その北側において外壁８９に突き当たっている。また、通路スペース６２は、その南側において通路スペース５８と隣接している。なお、通路スペース６２が特許請求の範囲に記載の「通路スペース」に相当する。

【００４９】

各通路スペース５８，６２の間には、出入口９６が設けられている。この出入口９６を通じて各通路スペース５８，６２の間を行き来可能となっている。出入口９６には、出入口９６を開閉する開き戸９７が設けられている。なお、出入口９６は、出入部に相当する。開き戸９７は、開閉体に相当する。

【００５０】
通路スペース６２には、洗面台１００が設けられている。洗面台１００は、通路スペース６２において外壁８９の壁際に設置されている。この場合、通路スペース６２は、洗面スペースとして利用されるようになっている。また、外壁８９は東西方向に延びており、その外壁８９の幅方向に並んで洗面台１００と収納部９４と洗濯パン９３とが配置されている。なお、洗面台１００は水回り設備に相当し、通路スペース６２は水回り空間に相当する。
【００５１】
通路スペース６２の東側には、トイレ６５が隣接して設けられている。トイレ６５には便器９８が設置されている。トイレ６５は、階段部６９の西側に隣接して配置されている。トイレ６５には、出入口９９を通じて通路スペース６２から出入り可能となっている。なお、便器９８は水回り設備に相当し、トイレ６５は水回り空間に相当する。
【００５２】
通路スペース６２の南側には、通路スペース６６が隣接して設けられている。通路スペース６６は、ダイニング３６の北側に連続して設けられている。各通路スペース６２，６６同士は出入口１０１を通じて行き来が可能となっている。出入口１０１には、開き戸１０２が設けられている。
【００５３】
つまり、各通路スペース５８，６２，６６は、全体として平面視Ｌ字状をなし、ダイニングキッチン３５と脱衣室５７とを連絡する１つの通路を形成している。このため、ダイニングキッチン３５から脱衣室５７には、各通路スペース５８，６２，６６を通じて行き来することが可能となっている。また、通路スペース６２（洗面スペース）には、リビング３８から脱衣室５７を経由せずに行き来することが可能となっている。
【００５４】
続いて、一階部分１１の各空間を形成する建物ユニット２０等について、図１～図３を参照しつつ説明する。
【００５５】
図１及び図２に示すように、玄関３１と玄関ポーチ３２とリビング３８と仕事室４１とは、ユニット群１３に設けられている。ユニット群１３を構成する２つの建物ユニット２０のうち、東側のものを建物ユニット２０Ａとし、西側のものを建物ユニット２０Ｂとする。玄関３１と、玄関ポーチ３２と、仕事室４１とは、建物ユニット２０Ａに設けられている。リビング３８は、建物ユニット２０Ｂに設けられている。
【００５６】
ダイニングキッチン３５と、廊下４２と、クローゼット４３とは、離し置き領域１５に設けられている。
【００５７】
図１～図３に示すように、各収納スペース４５，４７，６１と、階段部６９と、パントリー５１と、キッチン３７の北方向に延出した部分と、浴室５６と、脱衣室５７と、各通路スペース５８，６２，６６と、トイレ６５とは、ユニット群１４に設けられている。ユニット群１４を構成する２つの建物ユニット２０のうち、東側のものを建物ユニット２０Ｃとし、西側のものを建物ユニット２０Ｄとする。階段部６９と、トイレ６５と、各収納スペース４５，４７と、各通路スペース６２，６６とは、建物ユニット２０Ｃに設けられている。パントリー５１と、キッチン３７の北方向に延出した部分と、浴室５６と、脱衣室５７とは、建物ユニット２０Ｄに設けられている。通路スペース５８と収納スペース６１とは、各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄの境界部であるユニット境界部１０７（以下、単に「ユニット境界部１０７」という）を跨いで設けられている。なお、各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄは、水回りユニットに相当する。パントリー５１は、小スペースに相当する。
【００５８】
建物ユニット２０Ｄにおいて、浴室５６及び脱衣室５７は、各建物ユニット２０Ｃ，２

０Ｄの並ぶ並び方向に隣接して設けられている。脱衣室５７は、浴室５６よりもユニット境界部１０７寄りに設置されている。また、洗濯パン９３と洗面台１００とは、ユニット境界部１０７を挟んで互いに離間して配置されている。洗濯パン９３と洗面台１００との間に収納部９４が設置され、その収納部９４がユニット境界部１０７を跨いで配置されている。

【００５９】

パントリー５１は、その全体が建物ユニット２０Ｄ内に配置されている。パントリー５１は、パントリー５１の南側の側面部５１ａと、建物ユニット２０Ｄの側面部１０８とが略面一となるように設けられている。なお、パントリー５１の南側の側面部とは、パントリー５１の、浴室５６及び脱衣室５７が並ぶ方向と直交する方向に見て脱衣室５７とは反対側の側面部のことである。

【００６０】

なお、一階部分１１においては、浴室５６や脱衣室５７、トイレ６５といった水回り空間が住宅１０の北寄りにまとめて配置され、リビング３８等の居住空間が南寄りに配置されるゾーニングがなされている。一階部分１１においては、ユニット群１３により水回りゾーンが形成され、ユニット群１４と離し置き領域１５とにより居住ゾーンが形成されている。

【００６１】

以上、詳述した上記実施形態の構成によれば、以下の優れた効果が得られる。

【００６２】

・上記実施形態によれば、洗濯パン９３と洗面台１００とが、各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄの境界部であるユニット境界部１０７を挟んで互いに離間して配置されている。この場合、洗濯パン９３と洗面台１００とは、いずれもユニット境界部１０７を跨ぐことなく配置されているため、洗濯パン９３及び洗面台１００をユニット工場において各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄにそれぞれ組み付けることができる。これにより、洗濯パン９３及び洗面台１００を各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄに設置するにあたり、施工工数の低減を図ることができる。

【００６３】

・近年、コロナウイルス等の流行もあり、住宅１０に訪れた訪問客が手洗い等のために洗面台１００を利用することがある。ここで、洗面台１００が脱衣室５７に設置されている場合、脱衣室５７は洗濯機９２が設置された洗濯用スペースとなっていることから、洗濯を行う居住者のプライバシが損なわれるおそれがある。そこで、上記実施形態では、こうした点に鑑み、通路スペース６２に洗面スペース１０３が設定されている。洗面スペース１０３には、リビング３８から脱衣室５７を経由しないで行き来可能となっている。このため、洗面台１００を利用する訪問客から脱衣室５７を見られてしまうことを抑制できるため、洗濯を行う居住者のプライバシを確保することができる。

【００６４】

・上記実施形態によれば、居住者が家事を行う際には、キッチン３７と、洗濯用スペースとされている脱衣室５７との間を、各通路スペース５８，６２，６６を通じて行き来することができる。また、通路スペース６２には洗面台１００が設けられているため、家事の際の移動途中で手洗いをすることができ、家事を行う上で好都合な構成となっている。

【００６５】

・上記実施形態によれば、各通路スペース５８，６２の間に設けられた出入口９６には、開き戸９７が設けられている。通路スペース６２において訪問客等が手洗いをする際に、開き戸９７を閉めておくことで、脱衣室５７の内部を見られてしまうことを抑制できる。これにより、通路スペース６２を通じてキッチン３７から脱衣室５７への行き来を可能とした構成にあって、脱衣室５７における居住者のプライバシを好適に確保することができる。

【００６６】

・上記実施形態によれば、洗濯パン９３と洗面台１００との間には、物を収納可能な収

納部９４が設けられている。収納部９４は、ユニット境界部１０７を跨いで設置されている。収納部９４は、水回り設備のような給排水設備の設置を必要としないため、施工現場において比較的容易にユニット境界部１０７を跨いで設置することができる。これにより、施工工数の大幅な増大を招くことなく、洗濯パン９３と洗面台１００との間のスペースを有効活用することができる。

【００６７】

・上記実施形態によれば、脱衣室５７に物干しスペース１０４が形成されている。これにより、通路スペース６２で手洗いをする訪問客等から洗濯物を見られることを抑制できるため、居住者のプライバシを好適に確保することができる。

【００６８】

・上記実施形態によれば、パントリー５１は、その全体が、建物ユニット２０Ｄの内部に配置されている。このため、パントリー５１をユニット工場において建物ユニット２０Ｄに組み付けることができる。これにより、パントリー５１を建物ユニット２０Ｄに設置するにあたり、施工工数の低減を図ることができる。

【００６９】

また、パントリー５１の全体を建物ユニット２０Ｄの内部に配置した場合、脱衣室５７のスペースが圧迫されることが懸念される。しかしながら、上記実施形態によれば、洗面台１００が建物ユニット２０Ｄとは別の建物ユニット２０Ｃに配置されているため、脱衣室５７のスペースを十分に確保することができる。

【００７０】

また、パントリー５１の全体が建物ユニット２０Ｄの内部に配置されていることで、離し置き領域１５のスペースが、パントリー５１により圧迫されるのを抑制することができる。このため、離し置き領域１５に設けられ、且つパントリー５１と隣接して配置されたダイニングキッチン３５のスペースを、より広く確保することができる。

【００７１】

・上記実施形態によれば、パントリー５１は、パントリー５１の南側の側面部５１ａと、建物ユニット２０Ｄの側面部１０８とが略面一となるように設けられている。これにより、パントリー５１をユニット工場において建物ユニット２０Ｄに組み付ける際に、パントリー５１の位置合わせを容易に行うことができる。

【００７２】

本発明は、上記実施形態に限らず、例えば次のように実施されてもよい。

【００７３】

（１）上記実施形態では、洗面台１００は、通路スペース６２に設けられているが、これに限定されない。例えば、間仕切壁等で区画された専用の洗面室を設けるようにしてもよい。また、脱衣室は、１つの水回りユニットに全体が配置されている必要はなく、ユニット境界部を跨いで設けられていてもよい。その場合、洗面台は、当該脱衣室において、洗濯機設置部とユニット境界部を挟んで反対側に位置するように設けてもよい。つまり、洗面台は、脱衣室とは別の水回り空間に設けられている必要はなく、脱衣室に設けられることも想定される。

【００７４】

（２）キッチンから脱衣室へと行き来可能とする通路スペースの配置は、上記実施形態のものに限定されない。また、キッチン３７と脱衣室５７との行き来を可能とする通路スペースは、必ずしも建物ユニット２０Ｃを経由しなくてもよい。例えば、上記実施形態において、パントリー５１に代えて、ダイニングキッチン３５から北方向に延びる通路スペースを設け、当該通路スペースと脱衣室５７との間に両空間の出入りを可能とする出入口を設けるようにしてもよい。

【００７５】

（３）上記実施形態では、物干しスペース１０４を脱衣室５７に設けたが、これに限定されない。例えば、通路スペース６２に設けてもよい。その場合、洗濯物がダイニング３６側から訪問客等に見られてしまうことを防止するため、開き戸１０２を閉状態とすると

よい。なお、物干しスペースは、必須の構成ではない。

【００７６】

（４）上記実施形態では、各ユニット群１３，１４は、いずれも２つの建物ユニットにより構成したが、各ユニット群１３，１４を３つ以上の建物ユニットにより構成してもよい。

【００７７】

（５）上記実施形態では、各建物ユニット２０Ｃ，２０Ｄは、桁方向に並べて配置されていたが、これに限定されない。例えば、隣接する各水回りユニットは、妻方向（平面視における短手方向）に並べてもよいし、一方の妻面と他方の桁面とを向かい合わせて並べてもよい。

【００７８】

（６）上記実施形態によれば、開閉体は開き戸となっているが、開閉体を閉めておくことで通路スペース６２側から脱衣室５７を見えなくすることが可能であれば、これに限定されない。例えば、開閉体は、引き戸であってもよいし、カーテンであってもよい。

【００７９】

（７）上記実施形態では、ユニット式住宅の一階部分に本発明を適用したが、二階部分に適用してもよい。

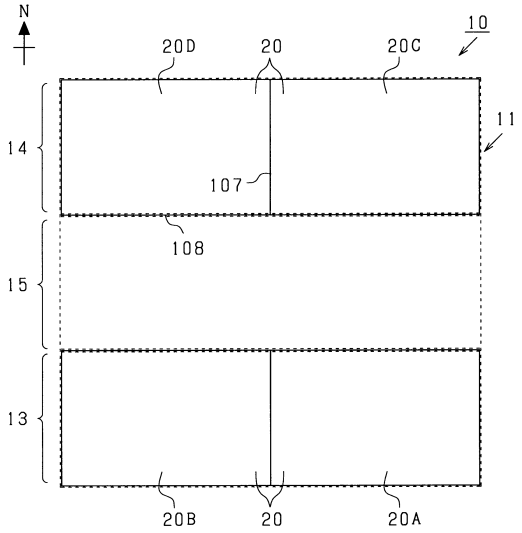
【符号の説明】

【００８０】

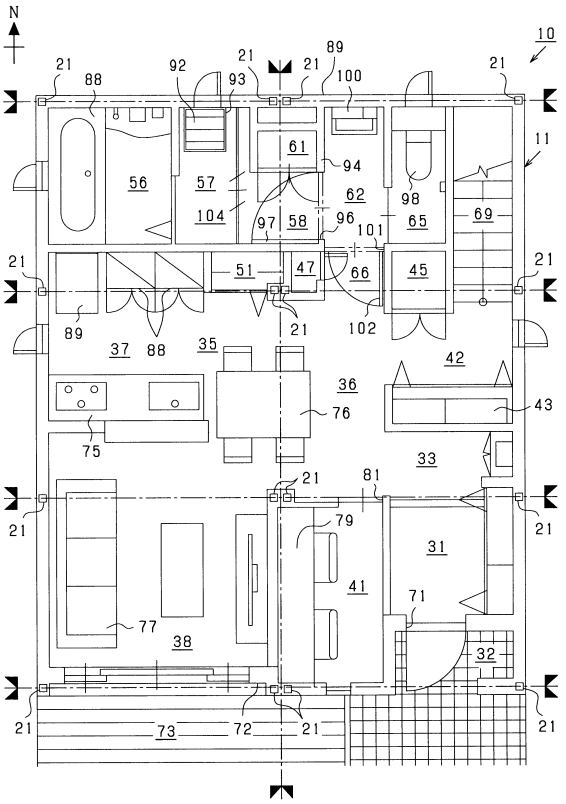
１０…住宅、２０…建物ユニット、２０Ｃ，２０Ｄ…水回りユニットとしての建物ユニット、３７…キッチン、３８…リビング、５１…小スペースとしてのパントリー、５６…水回り空間としての浴室、５７…水回り空間としての脱衣室、６２…通路スペース、６５…水回り空間としてのトイレ、８８…水回り設備としての浴槽、９２…洗濯機、９３…洗濯機設置部としての洗濯パン、９４…収納部、９６…出入部としての出入口、９７…開閉体としての開き戸、９８…水回り設備としての便器、１００…洗面台、１０３…水回り空間としての洗面スペース、１０７…ユニット境界部。

【図面】

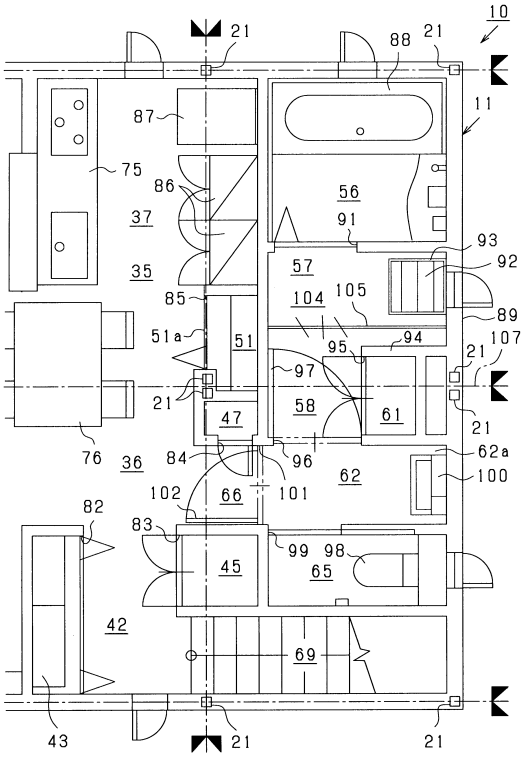
【図１】


N
10
20D
20
20C
11
14
107
108
15
13
20B
20
20A

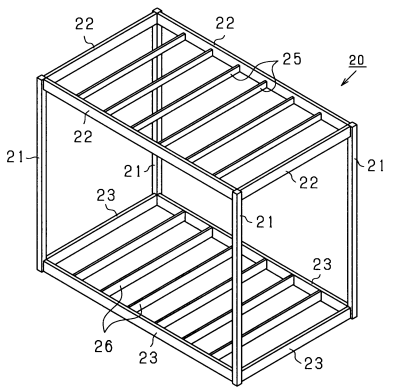
【図２】


N
10
11
21
88
92
93
89
100
61
94
56
57
62
98
104
97
58
96
101
65
69
51
47
66
45
102
37
35
42
36
76
43
75
33
81
79
31
41
71
77
38
32
73
72

【図３】


10
11
21
88
87
75
86
56
91
37
93
92
57
35
105
104
85
89
51a
51
95
94
107
97
58
61
47
62a
76
36
84
96
62
100
102
66
101
82
83
99
98
45
65
42
69
43

【図４】


22
25
20
21
23
26